

自己評価結果公表シート(令和7年度)

宮山台幼稚園

1. 本園の教育目標

「元気な子」・「考える子」・「思いやりのある子」の三原則を達成するための、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもが安全に安心して過ごせる環境を整え、子どもが主体的に活動する力を育む
- ・幼保小の架け橋プログラムへの本格的な取り組み・ICT(登降園・保護者への連絡アプリ)の導入
- ・誰でも通園制度の堺市試行に参加する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
① 保育の計画性	毎月のカリキュラムの内容では「10の姿」を意識することは継続しつつ、園児の現況に即して計画することができた。子どもに無理のない計画を立てることが肝要である。堺市の幼保小架け橋プログラムの一環で幼保小が連携してカリキュラムの作成に取り組む。
② 保育のあり方、幼児への対応	子どもが主体的に活動する年齢に合わせた教育・保育を実践する。日々の保育だけではなく、大きい行事においても同様である。
③ 保育者としての資質や能力・職員間の相互理解	・幼児の姿や遊びの記録をもとに、教職員が定期的に話し合い、ねらいや内容の見直しを継続して行う。 ・職員同士の交流や情報交換を円滑に行い、園児の学びと育ちをつないでいく。
④ 保護者との関わり	・保護者の気持ちに寄り添い日々の会話を大切にしながら、子どもを中心とした話ができる関係づくりを行う。 ・生活習慣の大切さを懇談等で保護者に伝える。特に乳児。
⑤ 研修の充実	・研修等を通じ専門性や倫理性の向上に継続して努めてきたが、他の施設の公開保育にも積極的に参加し、見習うべきところはすぐに実践することができていた。今後も機会を捉えて、経験年数にかかわらず参加していきたいと考える。
⑥ 安全対策と施設整備の推進	・毎月の安全点検、及び業者による点検により園の設備保全個所を見つけ整備を行った。 ・省エネルギーの取り組みとして、空調設備の更新に取り組んだ。 ・衛生設備の乾式化を行った。
⑦ 健康管理の充実	・登園時、降園時の視診を大切にし、子どもの小さな変化にも気づくように改めて努める。 ・園児・教職員の各種健康診断を行っている。 ・感染症対策も行政通知等に基づき継続して行っている。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・全体的にはおおむね取り組むことができている。
- ・幼児・乳児の安全面を再確認すべく、行政通知等の情報、職員、保護者の意見を取り入れて必要な部分は更新した。
- ・子どもへの対応においては、観察を重ね、保育者間での情報共有を通して、子ども一人ひとりの理解に努めてきた。特に、配慮が必要な子どもへの対応については意識的に取り組んできたが、全体の子どもの把握については偏りが生じる場面も見受けられ、今後の課題と認識している。
- ・SNSを活用し、保護者や外部に情報発信を継続している。
- ・年度途中ではあるが、ICT化に取り組むことが決まっている。まずは、登降園システム、保護者への通知、保護者からの通知など段階的に導入することで無理なく移行できると思われる。
- ・それぞれの自己評価や話し合いを通して、全教職員の共通理解を図った。
- ・キンダーカウンセリングの実施により、保護者の不安な気持ちだけでなく、職員の気持ちもやわらいだことは、大変良かったが、初めて利用する保護者の心のハードルは園が考えるよりかなり高いようである。そのことを踏まえたうえで案内をする必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

- ・安全安心な園づくりに向けて、情報収集をし、日々更新するように努める。
- ・保護者を含め、外部への情報発信をさらに充実させていく。
- ・子どもの主体性を大切にした環境構成については、講師の先生等からも情報収集をし、新しい教材や素材を取り入れた保育に挑戦することを継続して課題としていきたいと思います
- ・子どもの理解においては、個への寄り添いだけでなく、全体の子どもを見渡す視点を持っていきたい。
- ・異年齢での活動をする機会を増やしていきたい。
- ・架け橋カリキュラムについて、今年限りではなく継続的に小学校やこども園との連携を大切に継続した学びの共有ができるようにする。
- ・配慮が必要な子どもや保護者への対応について、行政とも連携を取りながら継続していきたいと思う。

6. 学校関係者の評価

- ・全体的に妥当な保育・運営がなされていると認められる。
- ・各年齢で発達過程に沿った教育・保育に取り組み、子どもたちも受け入れやすく、楽しみながら行えていると思う。活動がマンネリ化しないよう新たなものに挑戦しようと工夫している様子がみられた。また、ドキュメンテーションへの取り組みで、子どもたちの様子が保護者に伝わりやすい。今後も継続してほしい。
- ・ICTへの取り組みが、職員や保護者にとって負担にならないよう段階的に取り入れられているところが望ましい。
- ・誰でも通園は、子どもにとって負担にならない園独自のルール作りが必要だと思う。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められています。